



▲ キューブ新体操教室 ▼



を毎日一生懸命やるなどということに関して、心からついてきてくれるというのはありがたいと思っています。川井：なるほどね。やっぱり世界を目指すんですからね。大変な努力なんでしょうね。

**純粋に新体操に向かっている
白石の子どもたち**

川井：新体操を白石に定着させるためには何が必要でしょうか？
秋山：そうですね。何度か白石の子どもたちを教える機会を与えていたんだと思います。目が真つすぐで、純粋に新体操に向かっている

いうことが、この賞を受賞した大きな理由のようなんです。ですから、スポンサー賞なんです。秋山：国際的な評価を受けたということもとてもよくわかるんですね。近代的な建物というのは世界中にあるんですけども、白石のように伝統的なものの中に違和感なく芸術的なものが入り込んでいるということではないかと思っています。川井：秋山さんも世界中を歩いておられる方ですから、そういう方に評価をしていただけるのは大変ありがたいと思っております。

**いつも感謝しながら
ホワイトキューブを利用**

川井：ホワイトキューブのアリーナの方はどうですか？あれは、やっぱりシステムの勝利かなと思ったんです。

秋山：本当に使いやすいですし、シドニーオリンピック前もあそこで合宿させたいいただいて、すごく集中してできました。白石の方たちの気質だと思っんですけれども、職員の方もすごくいい方たちです。川井：ありがとうございます。

秋山：すごく歓迎していただいて、おかげでオリンピックにもいい状態で行けたと思っています。本当に私もはいつも感謝しながらあそこを使わせていただいているんです。川井：これからもアリーナでいろいろ

イベントも開催して弾みがついていけばありがたいなと思っています。ところで、今はコーチとして活躍しておられる秋山さんには、「どのようにして選手を育てるべきか」というようなことをお話しいただきたいのですが。

**試合の成功は自分一人の
力ではありません**

秋山：私自身にとつては、自分が選手として活動するよりも、今の仕事や裏方の方が性格的には向いているのではないかなと思っています。でも、自分が選手の時、選手ほど幸せなものはないと思っています。一つの試合の成功というのは、自分一人の力でなされるものではなく、いろんな人の力があってこそ、自分がその場で演技することができるとですね。例えばレオタードを縫ってくれる人とか、わざわざフロアマットを敷いてくれる人、音楽を作ってくれる人、または会場設定をしてくれる人、いろいろな人がいなければ選手は演技ができないわけで、でも、一番目立つて、一番華々しい場所を選手というのにはもらえるわけですよ、みんなの力を借りて。

だから、これほど幸せなものはないというふうに思っています。試合でいろんな成績をとり、優勝したりすると、もちろん自分もそうですけど、周りの人も喜んでくれると子どもたちばかりでした。逆に、都会の子どもたちというのは、周りにいろんなおもしろいこととか、刺激がいっぱいあって、いろいろ目が移りやすいんですけれども、白石という環境そのものが、すごくスポーツをするには向いているのではないかなと思います。集中して練習しやすいですし、ホワイトキューブは広々として天井も高く、運動するには最適な環境がありますので、そこに動くことの喜びとか楽しさを教えられる人がいれば、あの環境の中から国際的な選手が生まれるのではないかなという可能性を十分感じています。

**夢や喜びを大事に
育てられる指導者を**

川井：ホワイトキューブで新体操に対応ができるというのも、日下イサヲさんのような方が、総合的に白石の新体操づくりにかかわっていただいたということが大変大きいと思っております。後続と申しますか、日下さんに続いて白石にそういう新体操を根づかせる指導者はどういうタイプの方が良いとお考えでしょうか。

秋山：日下先生は、子どもたちに遊びの中での新体操とか、喜びとしての新体操を教えてください方だと思っんですよ。

無理やり泣きながら調教のようにやるスポーツではなくて、楽しいから体を動かすんだとか、その中でできるような喜びとかそういうものを十分教えていただいていますので、その中からもっと自分はどうしたいという、子どもたちは夢を持つようになると思っています。その夢を大事に育てられるような指導者が求められると思うんですよ。

やはりエリート、とにかくオリンピックを目標すんだとか、日本一になるんだということばかりに目を向けてしまいますと、本当に何のためか、スポーツをやっているのか、好きだからやっているスポーツが、子どもたちが指導者の戦うための武器のような、ただ調教されているという



▲選手時代の秋山さん

まずように、本当に裏方の人は大事なんですね。秋山：私自身、日本一の時に支えてくれた人に大変感謝していました。逆の立場になった時に、選手の時では見えなかったことがよく見えるようになって、裏方であることの喜びというのをすごく身にしてみてもわかるようになりました。川井：その考えは本当にすばらしいと思います。

秋山：そうですね。川井：やはり、そういう考えが大事なのかも知れませんね。後で新しい選手を育てていく上でも、そういうことが大事なのかなと、大変感動しました。

秋山：やっぱり毎日の練習というのはつらいものですし、それに対して私はある意味本当に選手たちを尊敬しています。よくこんなつらいもの



▲現在は指導者として活躍されている
秋山さん

子どもたちを見受けることがありません。やはり白石の子どもたちはそうではなくて、好きで楽しいから頑張っている、だからもっとうまくなりたいたか、そういう純粋な気持ちでスポーツを続けていってほしいと思いますし、どんなにうまくなくても、好きだからという、その部分を大事にしてほしいなというふうに思います。